

中込 権り

取極思毛く出陣如致

乃茲仲あふ之比

令和5年度第3回一宮町文化財講座

「玉前神社社家日記」の世界



玉前神社社家日記

江澤一樹

社家日記 作

○日時 令和5年(2023)

10月14日(土)

午後1時30分～午後3時頃

○会場 一宮町中央公民館

・大会議室

(一宮町一宮 2460)

○講師 江澤一樹

(一宮町教育委員会学芸員)

○定員 70名

(事前申込不要、先着順)

【問合せ】 一宮町教育委員会 0475-42-1416 (平日のみ)

e-mail : syakai@town.ichinomiya.chiba.jp

【講座の概要】

令和5年5月17日付で、一宮町指定文化財となった「玉前神社社家日記」。幕末の天保15年(1844)から嘉永5年(1852)にかけての日記(弘化4年分はなし)で、上総国一之宮であった玉前神社の社家であった風袋、飯塚、宮本、小塚、高原の5家が共同で記録したものです。

社家が担っていた上総神楽の奉納に関する記事や一宮藩に関わること、異国船の出没、盗人の出没、年中行事など記された内容は多岐にわたります。特に弘化2年(1845)4月5日に一宮海岸で行われた軍事操練については藩主の装束、隊列など細かく記され、多くの見物人がいたことが記されています。

今回の講座では、幕末の一宮について、社家日記の記述から迫っていきます。



▲絵葉書「(上総一宮)玉前神社」(戦前)

【表面の解説】

○(一番右)「小盗流行」

- ・天保15年(1844)6月から7月、一宮本郷村の町中では放火が相次いでいたようです。

○(右から2番目)「殿様熊毛之陣羽織」

- ・弘化2年(1845)4月5日、海岸で行われた操練で藩主・加納久徳は「熊毛の陣羽織」を着ていたようです。

○(右から3番目)「異船沖ニ相見候」

- ・弘化2年(1845)2月29日、九十九里沖に異国船が出没したようです。

○(右から4番目、5番目)「当春以来不漁打続」「汐祭可相催旨」

- ・嘉永4年(1851)正月、不漁が続いていることから、玉前神社は汐祭(大漁祈願カ)を行うことを決めたようです。

○(一番左)「社中一同」「神楽」